

## 指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

ご自身または代諾者等が、試料・情報をこの研究に使用してほしくないと思われる場合、研究計画の概要をご覧になりたい場合、その他研究に関することは「問い合わせ先」へご照会ください。ご照会された場合でも、なんら不利益を受けることはありません。

研究計画書番号	RP-S1-21
研究課題名	原爆被爆者における皮膚がん罹患の放射線リスク
研究責任者（所属）	カフーン・エリザベス（米国国立がん研究所）
放影研での研究責任者	杉山 裕美
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的： 第 1 の目的として、更新されたがん罹患データに基づき、皮膚がん組織型別の放射線線量反応を評価する。第 2 の目的は、皮膚の日光暴露領域と遮蔽領域で、電離放射線線量反応の違いを明らかにし、交互作用を裏付ける証拠を提供することである。 利用方法： 本研究の対象者は、120,321 人の原爆被爆者コホートの寿命調査 (LSS: Life Span Study) 対象者です。そのうち、原爆からの放射線被曝線量が推定されている人と、1958 年 1 月 1 日時点でがん既往歴がない人を解析の対象とします。広島と長崎の地域がん登録、と腫瘍組織登録からのデータを使用して、2011 年までの LSS コホートの皮膚がん罹患データを使用します。また、線量推計システム 2002 改定 1 版 (DS02R1) により推定された吸収皮膚線量を用います。皮膚がんが発生した部位を紫外線との交互作用を考慮し、日光暴露領域と遮蔽領域に分けて、放射線による皮膚がん発生リスクを推定します。これまでに調査した、郵便調査および面接調査から教育歴、体格、喫煙、アルコール消費、および野外活動と職業に関する情報も考慮して、放射線の過剰相対リスク (ERR) および過剰絶対リスク (EAR) を推定します。
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（提供先機関：米国国立がん研究所、Hirosoft International） <input type="checkbox"/> 無
利用し、又は提供する試料・情報の項目	放影研の既存データ： 個人基本情報：性、生年月、被爆都市、放影研健診対象者か否か、吸収皮膚線量、死亡年月 郵便調査や面接調査から取得したデータ： 教育歴、体格、喫煙、アルコール消費、野外活動、職業に関する情報

	<p>広島と長崎の地域がん登録または腫瘍登録から取得するデータ： 腫瘍の発生順位、部位、形態、病期またはサイズ、診断の根拠、診断日</p> <p>解析では、個人を特定できないよう、日付（生年月日、診断日）は年月までとして日は含めず、放射線線量は有効数字 3 桁までとして丸めます。</p>
利用する者の範囲	<p>米国国立がん研究所 カフーン・エリザベス 馬淵清彦 ヒロソフトインターナショナル プレストン・デール 放射線影響研究所 スポスト・リチャード 小笹晃太郎 杉山裕美</p>
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	カフーン・エリザベス（米国国立がん研究所）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	<p><b>【研究担当者】</b> 氏名：杉山裕美 公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131</p>